

# 1 大人の成長

## ■ 成長とは

経済成長、事業の成長戦略、子どもの成長など、日常生活で「成長」ということばは頻繁に使われます。しかし、そのことばの意味は使われる状況、文脈によって微妙に異なります。

広辞苑によれば、「成長」とは「育って大きくなること」「育って成熟すること」と定義づけられています。この定義からわかるように「成長」には、量的な側面と質的な側面の2つのとらえ方があるのです。そして、大人の成長とは、もちろん質的な成長のことを意味します。

大人の成長に関する研究領域に「成人発達理論」<sup>2</sup>という考え方があります。この理論が主張しているのは、簡単にいえば「人は成人したあとも発達し続けること」です。つまり、人は生涯、質的な成長を続けられるというのです。

しかし、すべての大人が質的な成長を続けているのでしょうか。成功体験を数多くもっている人や、地位や年齢が上の人の中には、保守的で変化を嫌い、みずから成長にブレーキをかけている人もいます。人は本来、死ぬまで成長し続けることができるにもかかわらず、それを阻害する要因によって、結果的に退行するケースも少なくありません。だからこそ、「成長し続けよう！」と強く願い、成長を阻む要因に打ち克つことが大切なのです。

そこで、まず仕事における自分自身の成長について考えてみましょう。具体的なイメージをもつことが成長の第一歩につながります。

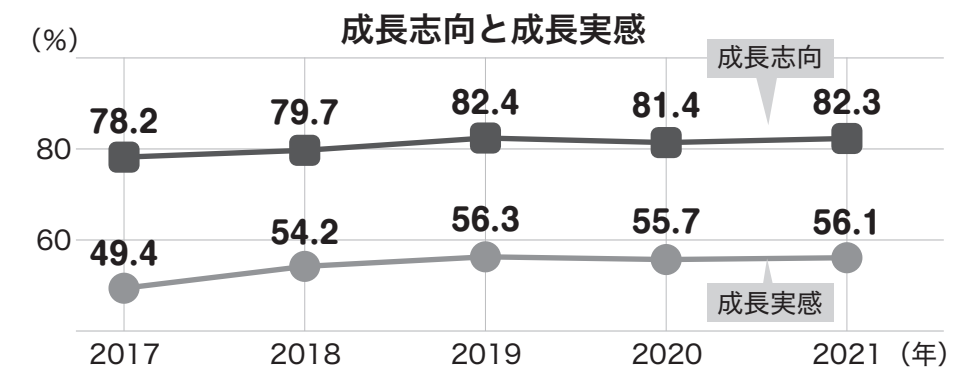
2…人間の成人以降の成長・発達に焦点を当てた心理学の理論

**Q** 「仕事を通じた成長」とは、どういう状態のことでしょうか。あなたの定義を言語化してください。

例：仕事に関わるあらゆるスキルを身につける  
周囲の人や社会に影響を与えられる社会人になる

## ■ 成長志向と成長実感

最近、若い世代を中心に、成長志向の強い人が増えてきました。パーソル総合研究所の2021年の調査<sup>3</sup>によると、「『働くことを通じた成長』は重要だと思うか」という質問に対して「重要だと思う」と回答した人の割合は82.3%（N：10,000人）に達しました。また、「過去1年間で、『働くことを通じた成長』を実感したか」という質問に対して、「実感した」と回答した人の割合は56.1%でした。2つのデータが示しているのは、「『成長したい』と考えている人が多い一方で、そうした人たちのすべてが『成長している』と感じているわけではない」ということです。



3…「働く 10,000 人の就業・成長定点調査 2021」株式会社パーソル総合研究所

あなた自身はどうでしょうか。この通信ゼミナールで学ぶということ自体、すでにあなたが強い成長志向をもっていることの表れといえますが、日ごろ、成長実感をもてているでしょうか。

そこで、これまでの会社生活を振り返り、どのように成長してきたのか確認してみましょう。

**Q** これまでの会社生活を振り返り、あなた自身がどのような点で成長したか。また、どのような体験があなたの成長を促進したか。それぞれ、できるだけ具体的に書き出してください。

【どのような点で成長したか】

.....

.....

.....

.....

【どのような体験が成長を促進したか】

.....

.....

.....

.....

## ■ なぜ、成長が止まるのか

前項で述べたように、成長志向をもっているのに、成長実感をもていない人が少なくありません。

世の中には、いくつになっても成長し続ける人と、ある時点で成長が止まってしまう人の2種類の人材がいます。筆者は長年、企業研修の現場で

多くのビジネスパーソンを見てきましたが、現場の肌感覚では後者のタイプの人のほうが多いという印象をもっています。

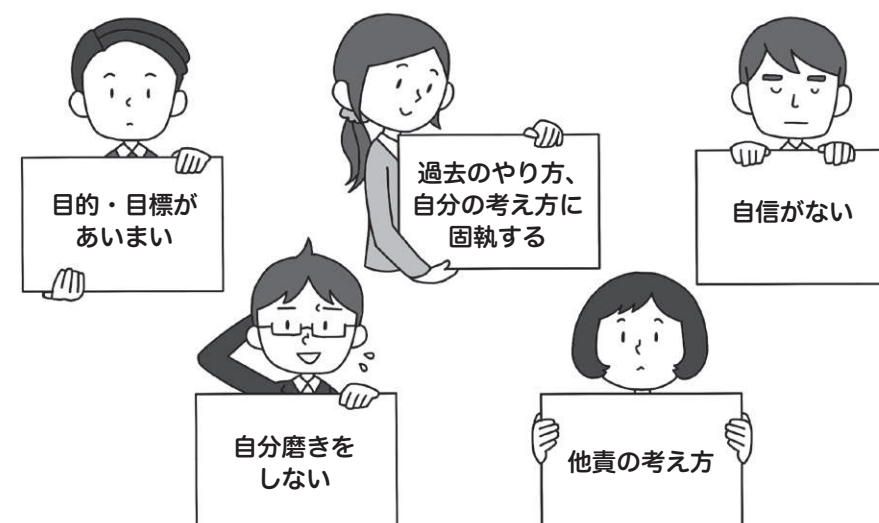
ここでは、多くのビジネスパーソンの傾向を分析して明らかになった、「人の成長を阻害する要因」として以下の5つをご紹介します。

### ①目的・目標があいまい

人生や仕事における目的や目標があいまいだと、みずからを駆り立てるようなエネルギーが内側から湧いてきません。現代人は、日々やるべきことが多く、忙しい毎日を送っていますが、「仕事を通じて何をしたいのか」「人生をかけて何をなし遂げたいのか」と考えている人は少ないのではないのでしょうか。

### ②過去のやり方、自分の考え方に固執する

過去の成功体験は貴重な財産です。しかし、世の中は絶えず変化しているので、過去、うまくいったやり方がいつまでも通用するとは限りません。基本ソフトを長年更新しなければ、パソコンの操作性が高まらないように、自分のやり方や考え方を絶えず更新していかないと、時代の変化から取り残されてしまうでしょう。



## 2

## 今、「自己成長」が必要な理由

## ③自信がない

最近、「自己肯定感」の低い人が増えてきました。「自分にはできっこない」「無理」「難しい」という発想は、チャレンジする意欲を削ぎ、本来もっている成長性や可能性を封印してしまいます。

## ④自分磨きをしない

「成長したい」と思うだけで成長できるなら、それほど楽なことはありません。成長するためには、それなりの努力が必要です。農作物でも、土づくりや肥料、水やり、害虫対策などの営みをしなければ収穫はできません。自分磨きのための努力を日々継続しないと成長できないのは自明のことです。

## ⑤他責の考え方

人間には防衛本能があるので、自分を守るために他責になりがちです。しかし、うまくいかない要因を他にばかり求めていると、自分の誤りや課題に目を向けること（＝自責）がなくなります。そして、結果として成長が止まってしまうのです。

**Q** ここで紹介した成長を阻害する5つの要因のうち、今のあなたに当てはまるものはありますか。項目とその理由を書き出してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## ■ 社会の変化

テクノロジーの進化にともない、IoT（Internet of Things：モノのインターネット）やAI（Artificial Intelligence：人工知能）、ビッグデータといった新しい技術が登場し、近い将来（2030年ごろ）、「第四次産業革命」<sup>4</sup>が起きると多くの専門家が予測しています。

第四次産業革命が起きると、これまで人が担ってきた業務の多くがAIに取って代わられるといわれます。しかし、AIといえど万能ではありません。苦手な仕事もあります。例えばクリエイターやアーティストのように、無から有を生み出す「創造的な仕事」や、人の心を読み取るような「感性を働かせる仕事」はAIにはできません。つまり、こうした仕事は人間にしかできないのです。

## 【激変する世の中】

## 産業構造の転換、事業ドメインの見直し

- 不採算事業の整理（縮小・撤退）
- ビジネスモデルの抜本的な見直し
- なくてはならない仕事（エッセンシャルワーク）と、「不要不急」の仕事の二極化が進む

➡ わが社（部門）は、何のためにあるのか？ 事業のミッションとビジョンが問われる

## 人材マネジメント上の遠心力の高まり

- 労働力不足を背景に、働き方改革が進む
- 副業解禁の流れが加速する
- リモートワークを前提とした対人関係
- 多様な働き方を認めない会社は人が離れる

➡ 多様性（ダイバーシティ）と一体性（インクルージョン）のバランスをどう図るか

## テクノロジーの進化

- DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展
- セキュリティ等、リスク管理の重要性

➡ デジタル技術をどう活用するか デジタル技術が理解できないと取り残される

## 従来の常識・価値観の転換

- 東京一極集中から地方分散へ
- GDPで成長を図る発想からの脱却
- 従来の常識や成功体験が通用しにくい時代

➡ 過去にとらわれない、素直な心で現実を直視することができるか

4...IoTやAI、ビッグデータを使うことにより起こる、製造業のイノベーションのこと